

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達サポートセンターma-ma			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日 ~ 令和 7年 3月 15日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	5	(回答者数)	2	
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	5	(回答者数)	4	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 1日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門知識・技術のある職員を配置し、ここでしかできない専門的な支援を行うことが出来ている。	それぞれの利用児の取り組む内容や特性に沿って職員を配置している。授業終了後の職員間での意見交換の場を通じて、提供するサービス・支援内容の向上に努めている。	今後も安定したサービスを専門的職員を通して提供していく為に法人内・外での研修を積極的に取り入れて職員のスキル向上の機会を増やしていく。
2	提供する専門的サービスを基に利用者に寄り添った個別支援を作成している。	利用する保護者・本人の願いに基づいて専門的知識のある職員が、実際の授業で利用児がどんなことが出来るようになりたいのか、またどんなことが困難なのか汲み取り、他事業所・相談支援とも協力してより具体的な個別支援計画を作成するように力を入れている。	今後も利用者、関係機関とも連携を強化しながら共通理解を深め、より寄り添った支援計画の作成に努める。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会を作る。	個別のプログラムがメインの取り組みになっているのが主な要因である。今後はプログラム自体を変えるのではなく、他の方面からも地域のこどもと関わる機会設定を検討し、開かれた事業運営に努める。	地域の保育園・幼稚園との交流方法を再検討し、既に通所されている保護者等にご意見を伺いながら協力して地域に事業所を周知していけるよう努めていく。
3	非常時の対応やそれに関する取り組み・マニュアルの保護者への周知が不十分である。	緊急時のマニュアルは整備されて教室内に掲示・設置されているが、保護者全体への十分な周知ができておらず認知が低い。	個別の保護者へ声掛けで周知を徹底していく。 またSNS等での共有方法も検討し、全体への周知に努めていく。

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	芸術の未来塾		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日 ~ 令和 7年 3月 15日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 1日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門知識・技術のある職員を配置し、ここでしかできない専門的な支援を行うことが出来ている。	それぞれの利用児の取り組む内容や特性に沿って職員を配置している。授業終了後の職員間での意見交換の場を通じて、提供するサービス・支援内容の向上に努めている。	今後も安定したサービスを専門的職員を通して提供していく為に法人内・外での研修を積極的に取り入れて職員のスキル向上の機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の対応やそれに関する取り組み・マニュアルの保護者への周知が不十分である。	緊急時のマニュアルは整備されて教室内に掲示・設置されているが、保護者全体への十分な周知ができておらず認知が低い。	個別の保護者へ声掛けで周知を徹底していく。 またSNS等での共有方法も検討し、全体への周知に努めていく。
2	地域の子どもたちとの交流が十分にできていない。	個人活動プログラムがメインであると共に、利用児の個人情報保護などの観点から積極的に交流の場を設けられていなかつた。近隣ビルや近くにお住いの人々には事業所を周知していただけている。	交流の場を設けるにあたって保護者の意見を第一に、地域のイベント等を改めて調査して具体的にどんな形で参加できるか検討する。

## 公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子どもの現代アート			
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 15日 ~ 令和 7年 3月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 1日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門知識・技術のある職員を配置し、ここでしかできない専門的な支援を行うことが出来ている。	それぞれの利用児の取り組む内容や特性に沿って職員を配置している。授業終了後の職員間での意見交換の場を通じて、提供するサービス・支援内容の向上に努めている。	今後も安定したサービスを専門的職員を通して提供していく為に法人内・外での研修を積極的に取り入れて職員のスキル向上の機会を増やしていく。
2	広々とした制作活動スペースがある。	それぞれの活動に応じて（他者との対面が苦手などの個々のご希望に添った支援）、スペースを区切り臨機応変な対応を心が掛けている。机だけでなく床面も広く使用し、利用児がのびのびプログラムに取り組めるよう配慮している。	引き続き制作スペースを広く確保し、利用者にとって安心して過ごせる清潔な空間作りに努める。 個々のニーズに合わせた環境づくりを心がける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会を作る。	個別のプログラムがメインの取り組みになっているのが主な要因である。今後はプログラム自体を変えるのではなく、他の方面からも地域のこどもと関わる機会設定を検討し、開かれた事業運営に努める。	地域の保育園・幼稚園との交流方法を再検討し、既に通所されている保護者等にご意見を伺いながら協力して地域に事業所を周知していくよう努めていく。